

はじめに

2017年4月 校舎豊洲移転の機会に
板橋校舎お別れイベント を提案します。

【日時】

2017年3月25日(土) (日程について学校側と協議済)

【場所】

板橋校舎全域 (体育館・食堂など含む)

【内容】

- ・高校生活を思い出す体験型企画
- ・最後だからこそできる大型企画 など

芝雄会の現状

- OBが集い、親睦を深める場
「卒業しても強いネットワークでつながる」ことは、学校にも同窓会にも有益

【例】

- OBによる在校生への講演会
- OBの情報交換 など

- 大多数のOBが参加していない
2014年度同窓会費納入状況: 148名
→平均1.67名/代
4割の代が、学年全体で会費納入0名
- OBが集まる企画・場がない
芝生祭での企画出展…くらい?

あるべき姿から
大きく乖離している状態

事業の位置づけ

だからこそ今、
板橋校舎お別れイベントが必要なのです。

【本事業の位置づけ】

- 学校の節目を、板校関係者全員で祝う
- 板校関係者が集う場、交流を広げる場の提供
- 板校ネットワークの活性化
→芝雄会・学校の活動高度化につなげる

(イベント以後の事業例)

- OBから在校生に向けて進路相談・就職相談
- 同業界、同大学でのOB間交流
- 100周年事業、豊洲校舎見学など今後の企画への促し

過去事業を振り返って



**90-60-30周年
記念行事を振り返って**

- ・高い年齢層
- ・若年層への訴求力低
- ・限られた時間
- ・立食パーティー形式の限界
- ・記念事業感がない
- ・在校生・OBで一体感がない

**豊洲移転を機に
校舎を活用したイベントで
OBと在校生をつなぐ**

コンセプト × ターゲット

Target (1) 在校生～大学生：学校へのつながりが多く残っている
同じ学年、同じ部活などの単位で関係が続いている

Concept：最後の校舎ででかいことをしたい

行く動機 みんなが集まるから、みんなに会える
行かない動機 面白くなれば、行かなくていいや

Target (2) 社会人～60代：母校、板橋校舎への思い入れがある
人のつながりは薄れてきた

Concept：板校と最後のお別れを

行く動機 校舎がなくなる前に行っておきたい
行かない動機 行って楽しめるのか、居づらくないか

イベントに求められる要素

行く動機を確実にし、行かない動機を軽減する
+今回のイベントだけで終わらないための施策

来場の
きっかけ作り

- ・校舎移転の機会にしかできない企画
- ・高校以来の／高校時代を思い出す体験
- ・級友や教職員が一堂に会する場の提供

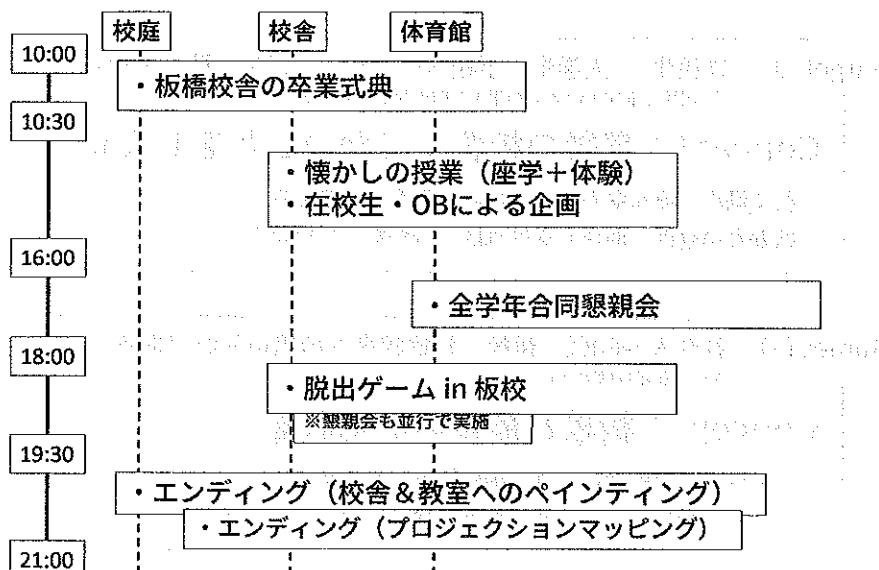
来場しやすい
空間の形成

- ・一人でも、複数人でも参加しやすい企画形態
- ・イベント全体で、各年代を網羅

今後の活動に
つながる要素

- ・新たなつながりを創出する場／企画の提供
- ・芝雄会の活動アピール

イベント案：時間軸



イベント案：企画概要(1)

板橋校舎の卒業式典

ポイント ちょっと堅めの、式典みたいな企画。高年齢層ねらい

在校生・OBによる企画

ポイント 在校生・OBから企画を公募する。
(例) 吹奏楽部OB、演劇部などなど

懐かしの授業（座学+体験）

(1) 現役・元教職員による○○授業

↑国語でも英語でも歴史でも生物でも…

ポイント ひさしぶりの、机に座って授業を受ける体験
+昔お世話になった教職員との再会

(2) ××年ぶりの○○で腕試し！

↑書道、音楽、工作、体育、技術、調理実習など…

ポイント 授業というコンセプト×体験型企画

イベント案：企画概要(2)

全学年合同懇親会

ポイント 体育館を全部使って、90-60-30のような懇親会スペースを

リアル脱出ゲーム in 板校

ポイント 校内全体にちりばめられたヒントをたどって、謎を解くゲーム。
老若男女問わず参加可能で、自由度が高い。
また、友人同士でも初対面の人同士でも楽しめる。

エンディング

(1) 教室&校舎をペインティング

ポイント 最後だからこそ、教室や校舎をキャンバスにする
一部分だけでも切り取って、豊洲に持っていくべき

(2) プロジェクションマッピング

ポイント 理系の学校らしく、最先端技術で演出。

既存事例(1)

朝日新聞 DIGITAL

■トランジスタ スポーツ カルチャー 有料・雑誌 オピニオン 写真

政治 社会 経済 国際 マオー 国際 テック&サイエンス 貿易 地域・エネルギー 環境・社会

風景写真大賞 風景写真コンテスト 動く風景 写真アート ペース元年 らんに花うめことじふる 香川の春にうらは インタビュー

100枚チャンネル 花車 人物・芸能 おもてなし・旅食 おもてなし・旅食

校舎にお絵かき、楽しくお別れ 閉校の小学校でイベント

2015年5月9日 10時30分頃 撮影：山下洋子

今年3月、102年の歴史に幕を下ろした福岡市中央区の田市立鏡子（すのこ）小学校で14日、校舎のさよならイベントが開かれた。

地元商店街と鏡子公民館の主催。水性ペイント手にした子たちが、好きな筆で壁面を塗り始めた。教室の床や壁に「ありがとう」といった文字を描いた。

同小は大勾配、斜面小、斜面中と構成され、4月から斜面小中学校となった。校舎は一部を残し、今年度中に取り壊される予定。鏡子芳春吉（こうこのじさん）（8）は、「お別れするのはつらけれど、教室でこんなことができるなんて！ 楽しい」と語った。（山下洋子）

出典：<http://www.asahi.com/articles/ASG9G4GTG9GTPE009.html>

既存事例(2)

くまにちコム

くまにちコムトップ 熊本のニュース・相談室 ありかとう 熊本学生大付高でお別れ会

熊本のニュース

○旧校舎、ありがとう 熊本学生大付高でお別れ会

熊本県六日町の新規着工式とお別れ会が12日、熊本市中央区の旧校舎内であり、卒業生や在校生から年齢の低い出ででて、笑顔で別れを告げた。

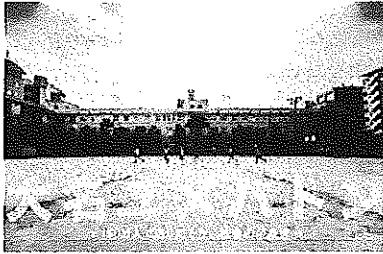
旧校舎は新規にクリート床までの時代、1967年から2003年までに約1万5千人の卒業生を送り出した。お別れしたたりと登場。在籍生は1月完結した4年生での直前告白で新制服をスタートさせている。

卒業生らは直前の授業時間内を借りて、やうに見て回り、教室や廊下にメッセージを残したりと最後までお別れ。モニターでは、木下知樹長のほか、さつきの木下、全員で歌を歌い、旧校舎への感謝を込めて風船を飛ばした。（吉野）

同校卒業生会の木下（会長161）は「いつか遡り見てもらえるか」といって、点滅しながら記念撮影で思い出しながらついてはいる」と語った。（吉野の子）

出典：<https://kumanichi.com/news/local/main/20150413017.xhtml>

既存事例（3）



廃校になる大名小学校の最後のハレ舞台をつくるプロジェクト

皆が大名小学校を、いわば、最後の舞台として残しておきたいと考える、この企画が実現されました。大名小学校は「彼らの手で」を津久見市長、多美町長、郷崎町長が率いる、津久見市立大名小学校の卒業生たちです。彼らは、津久見市立大名小学校の卒業生たちが、これまでに「彼らの手で」で、何をやったかを語りました。



[出典:https://faavo.jp/fukuoka/project/195](https://faavo.jp/fukuoka/project/195)

■スケジュール案

期間	内容
2015年1月～2015年3月	・運営メンバー一次募集（この後も継続して受け入れ） ・イベント実施について芝雄会総会で決議
2015年4月～2015年6月	・運営キックオフ会議 ・全体構想、企画大枠の決定
2015年7月～2015年9月	・予算の決定、来年度予算への組み込み (中高予算への反映)
2015年10月～2016年3月	・企画の一般公募、準備 随時、企画の精査を行う
2016年4月～	・企画実施